

学校経営方針(中期経営目標)			前年度の成果と課題		本年度学校経営の重点（短期経営目標）	
網野学園基本方針より 1 落ち着いた学校、落ち着いた授業により学力を付ける。 2 規範意識を醸成し、思いやりをもち仲間と共に生きる豊かな人間関係を築く力を育てる。 3 すべての子どもに、未来を展望し、自ら将来を切り拓く力を付ける。 4 自然・人・社会とつながり、郷土を愛する心を育てる。			○みんなで学び合う授業、仲間とつながり合う授業の増加 ○育てたい非認知能力の明確化と取組の充実 ○ICTを活用した家庭学習、個に応じた学習の充実 ○異年齢活動を通した子ども同士のつながりの高まり ○保護者・地域と連携した安心・安全な登下校の確保 △認知能力と非認知能力の一体的な育成と児童の見取り △課題解決的な学習、探究的な学習 △文章を読み解く力 △家庭と連携したスクリーンタイム、規則正しい生活習慣の改善		○みんなで学び合う学校 ・意欲や向上心をもち、挑戦する子の育成 ・あきらめず、粘り強くやり抜く子の育成 ○仲間とつながり合う学校 ・自分の考えをもち、他者に伝えたり聴いたりすることができる子の育成 ・仲間と問題を解決しようとする子の育成 ○個を大切にできる学校 ・人を思いやり大切にできる心の育成 ・よさや違い、多様性を認めることができる心の育成 ○信頼される学校	
評価項目		重点目標	具体的方策		成果と課題（自己評価）	
学校教育指導の重点、保幼小中一貫教育の諸計画及び各学園の重点等を基盤とし	教育課程 学習指導	○探究的な学びを充実させ、主体的に問題を解決しようとする力を育てる。 ○仲間と共に学び、高まり合おうとする力を伸ばす。 ○自分の考えをもつことや、伝える力・聴く力を高める。	・地域教材を生かした探究的な学びを目指し、研修と実践交流を通して指導者が学び合い、教科横断的なカリキュラムマネジメント力と授業実践力を高める。 ・学園の研究と連動させながら認知能力と非認知能力を一体的にはぐくむ授業づくりに取り組む。 ・日々の様子や学力テスト等の結果から個々の実態を把握し、課題の改善に迫る授業と、その評価にこだわる。 ・授業や家庭学習において ICT を効果的に活用し、「個別最適な学び」と「協働的な学び」に取り組む。		○実践や情報を共有しながら地域を教材とした総合的な学習の時間や生活科の学習の充実を図り、児童の地域に対する興味・関心が高まった。また、地域の方とのつながりも広がった。 ○認知能力と非認知能力を一体的にはぐくむ授業づくりの研究を計画的に実施し、児童自らが「仲間とつながり粘り強くチャレンジ」を意識している場面が増えた。 ○タブレットを使った学習場面が増え、家庭学習での使用も定着してきた。 △研究の成果が十分には表れていない。(学力課題) ICT を活用した個別最適な学びや協働的な学びを教師が意図的に仕組み、児童自らが課題に向かって学習する力を育てる。	
	生徒指導	○人を思いやり大切にできる心を育てる。 ○児童の変化や気になる様子を捉え、いじめを早期に防止する。 ○丁寧なアセスメントと個に応じた支援を行い、不登校を未然に防ぐ。	・特別活動や道徳教育、人権教育、国際理解教育、特別支援教育等を通して、相手を思いやる心、人権尊重の心の育成に取り組む。 ・学級活動や異年齢活動を大切に、児童が安心できる居場所やよりよい人間関係づくりに取り組む。(発達支持的生徒指導の実践) ・問題を早期に発見し対応できるよう、日頃から変化への敏感に気付くことと情報共有を心掛け、組織的に動くことを基本にする。(課題予防的生徒指導の実践) ・定期的に部会を開いて気になる児童のアセスメントを丁寧に行い、対応・支援のタイミングや方法等の判断を誤らないようにする。		○「児童に任せる、委ねる」特別活動に取り組んだ。児童会活動や異年齢掃除、大縄の取組が充実し、高学年のリーダー性を高めてチーム内のよりよい関係を築きくことができた。 ○教職員間の情報共有を日常的に行い、児童の様子や変化に早期に気付き、丁寧に対応することに努めた。不登校傾向や児童の困っている問題に組織的対応し、改善につながってきている。 △問題が生じてからの対応や指導することが少なくなかった。発達支持的生徒指導を充実させ、日頃から心理的安全性のある環境、良好な人間関係、豊かな心をはぐくみ、問題の未然防止・抑止につなげる。	

健康（体育）・安全	○進んでチャレンジし、あきらめずやり抜く力を育てる。	・自分の目標に向かって粘り強くやり抜く経験と肯定的評価を重ね、自発的・主体的な力を伸ばす。 ・実態調査の結果等を示しながら家庭と連携を図り、自ら考えてよりよい生活を実践しようとする取組を行う。 ・外部講師を招き専門家による交通安全教室・非行防止教室・薬物乱用防止教室や訓練等を計画的に実施し、危険を回避したり被害に遭ったりしないための判断力を育てる予防的指導、安全教育を行う。	○様々な場面で「仲間とともに粘り強くチャレンジ」を目標にし、児童自らが新たな取組を考え、高まり合うことができた。 ○外部から講師を招聘し、専門性を生かした学習により児童の理解を高めることができた。 △情報機器の使用状況の課題は、家庭の協力・意識向上が不可欠である。調査結果の課題を懇談会で伝えたり講演会を開催したりする以外にも理解を図る取組が必要である。 △服装等の問題について、個性と捉えた家庭責任か、規範意識の醸成と捉えて学校の対応や指導が必要かに迷い、現在は様子を見守っている状況である。
特別支援教育	○個の教育的ニーズに応じた指導や支援を実践する。 ○よさや違い、多様性を認め合える心を育てる。 ○組織体制を整備し、部の動きの機能化を図る。	・あらゆる教育活動の場面を通して個のよさや違い、多様性に気付かせ、互いの頑張りを認め合い共に力を高め合おうとすることの気持ちよさや充実感を味わわせる。 ・特別支援教育コーディネーターが要となり丁寧なアセスメントを行い、特性の理解、指導の方向性を全教職員で確認し合って適切な指導・支援に努める。 ・組織的な体制を整え、短・中・長期の目標を明らかにして支援計画や指導計画等の作成・実践・検証を行う。	○児童を理解し、特性に合わせた支援が進められ、落ち着いて学習や活動に向かえるようになってきている。 ○日々、教職員間でこまめに状況を交流してアセスメントを行い、児童に適切な学びの場、環境づくりに努めてきた。 △支援計画、指導計画が形式的にならないよう、実態に合わせた見直しと、内容の充実や具体的実践が必要である。 △教職員の理解に個人差があり、研修を行った。個に応じた指導、インクルーシブ教育、ユニバーサルデザイン教育についてさらに学び合うことが必要である。
危機管理	○教職員の危険予知の感度を上げ、事象や事故の発生を未然に防ぐ。 ○危険を早期に発見し、組織的に早期の対応を行う。	・情報を一元化し、集合や黒板・回覧板等を活用して全教職員でタイムリーに共有する。 ・危機管理マニュアルを整備し、いざというときに活用できるように教職員で内容の共通理解を図っておく。 ・日常的な見回りや定期的な校内点検を行い、安全管理を徹底し、危険を未然に防ぐ。（リスクマネジメント） ・日頃からルールやきまりの遵守に努め、事象や事故の発生を防ぐ。	○不審者対応研修の効果が見られ、教職員の防犯意識の向上につながった。 ○日常的な情報共有が増えた。組織的な対応も早くなっている。 △教職員の危険予知の感度を上げることが必要である。安全点検時に気付くが、日頃は見逃していることもあり、危険な遊び方への指導が後手になるときがある。 △廊下歩行、登下校については課題が継続している。指導の効果は一過性であり、主体的な行動改善に至っていない。
次年度に向けた改善の方向性	○課題や問題に自ら向き合い、解決していく過程を楽しみながら体験し、結果や答えを導き出していく授業づくりを大切にする。 ○非認知能力を高めるギミックを継続し、「自分と向き合う力」「自分を高める力」「他者とつながる力」を育てることができているかを見取りや検証の方法と、認知能力の向上との関係を追及する。 ○個々のよさや違いを教職員も児童も認め合い、児童の主体的な活動の充実、安全かつ安心できる環境づくりに取り組む。 ○保護者や地域、外部の方々に協力や支援していただく機会を大切にし、共に児童を守り育てる関係を築く。		